有間敷と、番の者寄合捕候へば、折ふし小雨降、暗き闇の夜なり、捕候て火を點し見候得ば、治部少なり、出立は綾の茶の小袖に裏は淺黄、笠を被り、腰簑をして端折れ候、

〔俳諧七部集猿蓑〕多

初しぐれ猿も小簑をほしげ也

蓑産地

〔毛吹草三〕越前　蓑

〔攝津志武庫郡〕製造　蓑小松村出

〔攝津志有馬郡〕製造　蓑廣野村造

蓑用法

〔延喜式内藏十五〕内侍召繼四人料、絹六疋、冬料各一疋、夏料各三丈、貲布四端、各一端、夏料、茨四領、各一領、笠四蓋、各一蓋

〔延喜式右左近衛四十五〕凡供奉行幸駕輿丁者、駕別廿二人、〇中略　揔廿二具、〇中略　有損破、申官請換、但笠蓑請内藏寮、

〔北山抄羽林要抄九〕雷鳴陣〇中略

鈴守近衛各一人、立長樂門橋西庭、兵衛官人以下、陣南殿前、〇略　註　但尉已上候殿上之者、帶弓箭、候御後、衛門侍中如此、近衛將監雖昇殿之者、著蓑笠立庭中、

〔日本書紀神武三〕戊午年九月戊辰、天皇既以夢辭爲吉兆、及聞弟猾之言、益喜於懷、乃椎根津彦著弊衣服及蓑笠、爲老人貌、又使弟猾被箕爲老嫗貌、而勅之曰、宜汝二人到天香山潛取其巔土、而可來旋矣、基業成否、當以汝爲占、努力愼焉

〔續世繼六合の歌〕宗俊の大納言、御母は宇治大納言隆國のむすめ也、管絃の道すぐれておはしましける、時光といふ笙の笛吹にならひ給けるに、大食調の入調をいま〳〵とて、年へて教へ申さざりける程に、あめ限りなく降て、くらやみしげかりける夜出來て、今宵かの物おしへ奉らんと申ければ、よろこびてとくとの給けるを、殿のうちにてはおのづから聞人も侍らん、大極殿へ渡